

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 27 年度

事業所番号	2775502194		
法人名	医療法人 幸晴会		
事業所名	こうせい苑グループホーム		
所在地	大阪府八尾市北木の本5-6-1		
自己評価作成日	平成 27年 8月 5日	評価結果市町村受理日	平成 27年 10月 22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2775502194-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 27年 9月 18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体の医療法人幸晴会と連携を密にし、利用者様、家族様共に安心して頂ける環境にあります。2階には、ウッドデッキがあり、野菜や花等を育てています。それらのお世話を毎日して下さる利用者様もあり、微笑ましく思っております。利用者様に質の高いサービスを提供出来る様、内部・外部の研修、フロアごとの勉強会等にて職員も専門性の向上に努めております。「やさしく・親切・丁寧に」「目配り・気配り・心配り」をモットーに職員は、丁寧な言葉使いや穏やかな接し方で利用者様に寄り添い、その方のペースにあわせた支援を日々考え、取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域に貢献する医療法人が利用者の声に応え開設したグループホームです。「目配り・気配り・心配りの『個別・自立支援』、優しく・親切・丁寧に『その人らしさを尊重』、地域と和合して『安全・安心』の理念を職員は共有し、一人ひとりに合わせた個別ケアを実践しています。母体の医療法人との連携は、利用者・家族の大きな信頼と安心感になっています。運営推進会議などを通じて地域とのつながりが拡がり、ボランティアや園児による訪問、中学生の職場体験など、外部からの来訪者も多くあります。職員の人材育成にも積極的に取り組み、内外の研修に多く参加しています。安心して働くことができる職場環境は離職者が少なく、チームワークもよく、ホーム全体の明るく穏やかな雰囲気を作っています。また、職員はホームでの看取りの貴重な経験から学んだことを日々のケアに活かしています。「利用者の表情と職員のチームワークの良さが私たちの自慢」という管理者・職員が支える暮らしは、ほのぼのとした温かい雰囲気の中で、いつもどこからか利用者・職員の明るい笑い声が聞こえてくるグループホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念「優しく・親切・丁寧」「目配り・気配り・心配り」「安心・安全」を事業所内に掲示している。全職員で共有して実践出来る様努めています。	「目配り・気配り・心配りの『個別・自立支援』、優しく・親切・丁寧で『その人らしさを尊重』、地域と和合して『安全・安心』」の理念を職員は共有し、一人ひとりに合わせた個別ケアを実践しています。	今後、運営推進会議や家族交流会の機会に理念について伝える機会を持ち、地域や家族から、より理念の理解や支持が得られるようにしてはいかがでしょうか。また、理念のさらなる実践に向けて、具体的な目標を検討されてはいかがでしょうか。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	運営推進会議で地域の方々と情報交換をしている。地域の行事に参加させて頂いたり、苑の「夏祭り」などに参加して下さっている。 又、保育園児との交流もあり、度々園にもご招待して頂いている。	ホームと地域との関係は、年々密なものになっています。地域の行事にも積極的に参加し、小学校でのふれあい祭りでは、ホーム専用の席を設けてくれるなど、地域にホームが周知されてきました。ボランティアの訪問も多く、コーラス・フラダンス・大正琴等の協力は、利用者の豊かな暮らしを支える大きな力になっています。利用者も来訪者に対して、おもてなしをしています。また、近隣保育園の園児交流も、利用者の楽しみの一つです。ホームも中学校の職業体験の受け入れや、地域の廃品回収に貢献しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで、認知症に関する内部研修の資料をもとに説明したり、感染症などの説明等もさせて頂いている。その時に意見・助言なども頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に一度開催しています。市役所の職員、高齢クラブ、民生委員、利用者の家族等の参加にて取り組んだ内容や実施したサービスの報告を行い、助言・意見等を頂き、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議は、市職員、民生委員、高齢クラブ代表、利用者、利用者の家族の参加を得て、2ヶ月に1回、定期的に開催しています。会議の場所は、利用者の様子が良くわかるホームのリビングで行っています。ホームより、利用者の健康管理、支援の状況、地域との連携や交流の状況、サービスの質を向上させるための取り組み等を報告しています。また、毎回特別なテーマで参加者と話し合い、評価や助言を得ています。最近のテーマは、外部評価の意義や目的、認知症、感染症予防、災害対策等です。会議録は、参加者と家族に送付しています。全職員にも回覧し、内容を共有しています。参加者の情報や助言をサービス向上に活かしています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当課とは、常に相談できる環境にある。	市の関係部署とは、何でも相談できる関係にあります。事故報告もしています。運営推進会議に参加の職員には、ホームの現状や課題を伝える機会と捉え、情報提供に努めています。市が開催する事業所連絡会や、施設分科会に参加し、市・他事業所と情報の交換と連携を深めています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの実践には、取り組んでいるが、エレベーターに向かわれる方がおられ、安全優先のため暗証番号制にしている。現在、職員の目が十分に行き渡る時間帯で開放している。	ホーム長は、身体拘束をしないケアの重要性を認識し、職員と共に日々のケアに取り組んでいます。職員は、法人が定期的に開催する研修会に参加し、研鑽しています。職員の見守りができる昼間の時間帯は、エレベーターの暗証番号を解除し、施錠しないケアにも取り組んでいます。2階には、利用者が自由に出入りし、日光浴や外の景色を楽しめる広いスペースのベランダが設置されており、解放感があります。職員が外出しそうな利用者を察知した時は、さりげなく一緒に行動する支援をしています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修でも虐待については、学んでいる。日常的に入居者様の様子（身体に異変がないか等も含め）を観察、報告を行い、職員間で情報を共有している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に制度を利用されている方もおられる。今後も必要とされる方と話し合い活用出来るよう支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や退去時には、面接にて十分話し合い、納得・了承を頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱の設置や苦情受付などを明記している。面会時などご家族と気軽に話せる関係ができており、意見・要望を言えるような環境を作り、運営に反映させている。	利用者や家族から意見や要望を表出しやすくする環境整備に取り組んでいます。利用者には、自治会『白百合町会』を職員の支援で開催し、季節の話題に始まり、食べたい物、行きたい場所等の意見を聞いています。家族には、3ヵ月に1回、ホームでの生活状況が伝わるたくさんの写真入りの「ふれあい新聞」を家族に送っています。また、年2回、利用者一人ひとりの暮らしぶり・健康状態・支援の内容等の詳細な情報提供をして信頼関係の構築に努めています。年1回の家族交流会、運営推進会議、面会の機会に要望等を聞いてホームの運営に活かしています。昨年は家族アンケートを実施し、家族の満足度等を把握しています。	家族アンケートを更に有効なものにするために、今後はホームとして一番確認したいテーマに絞り、実施することを検討されてはいいかがでしょうか。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議で、発言しやすい環境を作り、出された意見を反映させている。又、職員と「接遇セルフチェック」に記入後面接を行い、意見等聞いている。	ホーム長は、職員の意見や要望をホームの運営に活かすことの大切さを認識しています。職員の全体会議やユニット毎の会議に参加し、職員の意見を聞いている。個人面接でも意見を聞いている。利用者の重度化に伴い、職員が利用者に関わる時間を多くするため、昼食を併設のデイサービスセンターで作ってもらうことに移行したことも、職員の意見を反映させた一例です。職員の意見が尊重され、チームワークのよい職場環境は、職員の離職者が少ない状況です。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が、専門性の向上に努められる様、研修・勉強会を実施し、意識向上を図っている。 又、働きやすい環境づくりに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の内部研修や外部の研修も積極的に取り入れている。 資格修得の為に法人内部での対策講座を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八尾市介護保険事業所連絡協議会、大阪認知症グループホーム協議会に加入し、研修会・勉強会に参加し、意見交換等でサービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所されたばかりの時は、「気付きノート」を作成し職員全員にて書き出し、情報の共有に努め、コミュニケーションも多くなり安心できるような声掛けを行い、信頼関係を築いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	介護計画を作成するにあたってご家族の要望を聞き、取り入れている。又、訪問時や電話等で近況報告を行い、話しやすい環境を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時」まず必要としている支援を見極められる様、情報収集をもとにカンファレンス等で話し合い、色々な選択肢が出来る様、他のサービスの情報収集にも努め、必要に応じて紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の語りや知恵に学ばせて頂く事も多く、それぞれの出来る事を役割として頂き、共同生活者としての関係を築いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族とは、本人の近況報告などを来苑時や電話等で伝え、意見を聞きながら共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設のデイサービスを利用されている方と会いに行ったり、馴染みの美容院にも出掛けていけるよう支援している。デパート・大型スーパーにも出掛けている。	馴染みの友人がホームに訪問しています。入居前に通っていた美容院に出かけたり、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援しています。入居前に併設のデイサービスを利用していた利用者は、デイサービスに通う馴染みの人に会いに行きます。教会や墓参り、居室で法要の支援等、職員は利用者一人ひとりの長い人生に思いを馳せ、これまでの生き方を尊重する支援を行っています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの利用者の性格等を把握し、利用者同士の関係をそっと見守り、他者とも関わりあえる様に支援しています。又、毎日曜日にテーブルを囲み「白百合町会」を開催し、昔話をしながら関わり合っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも相談出来る事、いつでもお顔をお見せ頂く様伝えている。退所されてからも近くまで来たと寄って下さったり、苑のボランティアとして来て下さっている家族様も居られる。		
Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、利用者1人ひとりの思いを把握し、カンファレンス等で職員の意見を聞き、何が一番したいのか？を本人本位の考えに添えるよう検討している。	利用者一人ひとりの思い・希望等の情報収集については、入居時の事前面接で、本人・家族から聞き取り、記録しています。日常の関わりの中での気づきや発見は、気づきノートに記入し、職員間で共有しています。ホーム開設時から続いている、利用者自治組織「白百合町会」は、毎週日曜日に話し合いを行います。自治会は、利用者の思いや要望を聞く、貴重な時間と位置付けています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族より情報収集し、関わっている方の意見も参考にするなど全職員は、把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の記録(いつ、何をしていたか?どんな表情、どんな様子だったか等)や申し送りなどにより把握し、個別のケアプラン作成上にも反映させている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	大阪府認知症高齢者グループホーム協議会の書式のサービス計画書を利用し、日々の家族の要望、本人、職員、医師等の意見を反映させ介護計画書を作成している。 本人の状態に変化があれば、その都度見直している。	介護計画書は、大阪認知症高齢者グループホーム協議会のサービス計画書の書式を活用し、「暮らしの状況」「心身の状況」を項目別に課題を見つけ、日々の「生活の目標」「活動の目標」を定めています。介護計画書は、利用者・家族の思いや希望を尊重しています。モニタリングは毎月、利用者一人ひとりに対し、職員全員意見を記入しています。日々の関わりの中での気づきや意見を、介護計画に反映しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子・ケアの実践・結果・気付き等記録し、全職員がその情報を把握し、介護計画書の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当法人内の多機能化を活かし、訪問看護も入ってもらい、24時間医療連携体制もとっている。 又、必要に応じ、言語療法士、理学療法士のサービスにも対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	すっかり馴染みとなったボランティア、美容院、保育園児とも隔月ぐらいで交流している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者が、当法人中谷クリニックの医師が主治医となり、月2回の往診、急変時は受診している。家族の希望や必要に応じ、他の医療機関（歯科、精神科、耳鼻科等）とも連携し、紹介等の支援をしている。	入居前からのかかりつけ医療機関へは、希望があれば受診可能です。入居前からのかかりつけの医師に往診にきてもらう利用者もいます。医療連携24時間オンコール体制を整えており、看護師が処置のために毎日訪問し、月2回は医師の往診があります。「救急搬送時基本情報」シートを作成し、夜間緊急時にも活用しています。母体の医療法人との連携は、利用者・家族・職員の安心に繋がっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制をとっており、毎日訪問看護師に利用者の状態を報告している。他の科への受診が必要な時は、家族と連絡をとり、受診できるように支援している。 又、24時間看護師と連絡がとれる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の看護師や相談員とも情報交換を行い、家族も交えて相談していく関係作りを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	段階ごとに家族の意向を聞きつつ、話し合いながら、医師・看護師と共にチームで支援に取り組んでいる。 「看取りに関する研修」にも参加し、伝達研修にて他職員にも看取りの心構えを話し合っている。	「緊急対応及び看取りに関する指針」を作成し、家族に示して説明を行っています。重度化により、必要が生じた段階で、家族・主治医・看護師・ホーム職員を交えて話し合い、ホームでの看取りが可能な場合は、同意書を交わしています。これまでも看取りに取り組みました。職員は、看取り後、「末期に関われる幸せを感じた」「人生に寄り添えた」と思うことができ、貴重な経験から学んだことを、日々のケアに活かしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルの作成、事故発生時の対応に関する内部研修も行っている。 定期的に普通救命講習にも参加し、実践力を身につけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隔月の避難経路確認、年2回の消防署の参加による避難訓練を行っている。夜間想定訓練も実施し、マニュアルも作成している。地域の方にも運営推進会議時にて協力をお願いしている。地域の防災訓練にも参加している。	年2回の避難訓練を実施し、1回は消防署の指導を受けています。また、2ヵ月毎に避難経路の確認を実施し、非常ドアや懐中電灯の点検などを行っています。元消防署員の職員が、法人全体の防災に関して、点検や避難の方法を職員に解りやすく浸透させています。非常災害時の備蓄も準備しています。	
IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に1人ひとりの性格を把握し、尊敬の念をもって、誇りやプライバシーを損ねないように留意しています。それぞれに合った声掛けや対応を心掛けています。	「優しく・親切・丁寧で『その人らしさを尊重』」を理念として掲げ、職員は実践しています。利用者の尊厳を守る研修を実施し、人生の先輩として言葉かけにも尊厳を損ねない関わりが大切であることを確認しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	コミュニケーションをとる中で、思いや希望を聞き、安心できるような声掛けを行い、気兼ねなく希望(思い)を出せる様心掛けている。 毎日曜日の「白百合町会」にても利用者の希望を聞く機会を設けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、1人ひとりのペースに合わせた生活を心掛けている。 食事も本人の体調に合わせ、居室にて食べて頂くこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で選べる方には、入浴時など衣服を選んで頂いている。ご自分で選ぶことの出来ない方には、着やすさ、気温を基準に選んでいる。 訪問美容では、出来るだけその方の好みや個性に合うようお願いしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの利用者の力に応じて、盛り付け、配膳、食器拭き等一緒に行っている。職員も利用者と共に同テーブルにてコミュニケーションをとりながら食べている。	食事は3食ホームで作っていましたが、利用者の重度化に伴い、直接関わる時間をより多くするため、昼食は併設のデイサービスセンターの厨房で作ってもらっています。朝食は、近くのコンビニへ利用者と一緒にパンを買に行きます。正月にはおせち料理、敬老祝賀会には松花堂弁当を職員が手作りし、利用者からも喜ばれています。職員も全員、利用者と同じものを食べながら、さりげなくサポートしています。利用者から、「美味しい」との声が聞こえ、和気あいあいとした食事風景となっています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をして いる	入居者1人ひとりの食事量、水分量に ついては、毎月の体重と共に記録して いる。形態もそれぞれに合わせ、ミキ サー食、キザミ食等の対応をしている。 職員も同テーブルにて一緒に食事 をし、必要な方にさりげなく介助して いる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、それぞれの方に応じた介助や 声掛けを行い、口腔ケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を 活かして、トイレでの排泄や排泄の自立 にむけた支援を行っている	入居者それぞれの排泄パターンを把 握し、トイレのサインを見逃さず、声掛 けと共に付き添っている。 自己にて排泄出来ない方には、時間を みてトイレに誘導し、支援している。	トイレでの排泄を基本としています。誘 導が必要な利用者には、一人ひとりの 排泄状況を把握し、随時声かけして誘 導しています。オムツを使用しながら 退院してきた利用者が、随時の誘導か らリハビリパンツに移行した事例があ ります。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて、個人個人の排泄状況を把握している。水分を多く摂ってもらったり、腹部マッサージなどに対応している。それでもだめな場合は、医師や看護師と相談の上、薬を処方してもらっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ほぼ一日おきに入浴されていますが、希望によっては、毎日入浴される方もいます。ゆず湯・菖蒲湯等にて季節を感じて頂けるようにして、楽しんで頂いています。	基本は2日に1回、週3回の入浴を実施しています。希望があればいつでも入れるようになっています。入浴を好まない利用者には、声かけの工夫やタイミングをみて、また、仲のよい利用者と一緒に入ってもらうこともあります。季節のゆず湯や菖蒲湯、入浴剤での色や香りなどを工夫し、より楽しんでもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠れなかった時や体調不良時などは、居室にて横になってもらえる様支援しています。夜は、銘々の時間にて休まれています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、1人ひとりの薬の目的・副作用などについては、把握するように努力している。薬の変更等あった場合は、状態を観察し、記録し、医師や看護師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の1人ひとりの出来る事を把握し、役割をもって、日々の家事等を行っている。楽しみ事も百人一首を完全に暗記されている方もおられ、レクリエーションにて発揮されたり、月に一度抹茶を点てて頂いたりして、昔を思い出されている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には、買い物・散歩・外気浴へ行ったりしている。 御家族も協力して下さり、散歩に連れて行って頂いています。 普段行けない所には、遠足等で全員参加されています。	近くのコンビニに朝食のパンを買いにいきます。スーパーへの買い物や喫茶店に行くこともあります。初詣をはじめ、花見や遠足などの行事で外出の機会もあります。2階の広いベランダには椅子・テーブルが置かれ、利用者は自由に外へ出て、天候や季節を感じています。気分転換でホーム前の道を通り、庭の花を眺めたり、野菜の成長を見に行きます。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段コンビニ等へ買物に行った際、好きな物を購入されたりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	日常的に希望があれば自由に電話して頂いている。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには、手作りのカレンダー、季節毎の壁紙を貼り、季節を感じて生活して頂ける様にしている。雛人形・七夕・クリスマスツリーなども飾っている。ホール横には、職員の名前・利用者の顔写真等を貼り、共同で生活している事を解って頂ける空間もある。	ホーム内は明るく、穏やかな雰囲気です。窓際には、ゆったりとしたソファや椅子が置かれ、寛げる場所になっています。リビングの一角には一段高くなった和室もあり、洗濯たたみや手工芸の作品作りの場として活用しています。リビングや廊下の壁面には、季節を感じる貼り絵や利用者の写真入りの作品が飾られ、楽しい暮らしの様子が伝わってきます。2階の広いベランダには、外気浴ができるようにベンチやテーブルを置き、季節の花も植えています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、テーブルの他にソファや畳コーナーもあり、気の合う入居者同士で過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が、入所前に使用していたタンス等持ち込まれ、昔作っていた作品等を飾られている方もおられる。居室間を行き来されている方も見かける。	居室入り口には、家族交流会で家族と一緒に作ったネームプレートを掛けています。居室には使い慣れた家具や、大切にしている家族の写真等を持ち込み、その人らしい居室づくりになるよう、工夫しています。仏壇を置き、居室で法要をする利用者もいます。趣味だったトランペットの演奏時の写真を貼っている利用者、可愛がっていた犬への思いを大切にしておもいぐるみを飾っている利用者など、個性を尊重した居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用で使用する空間には、障害物等を置かない様にしている。 トイレ・廊下・浴室には、手すりがあり、居室には、ネームプレートがあり、トイレも貼り紙をし、解りやすくしている。		